



二川宿まち並み通信

第38号 令和7年9月1日
発行：「二川宿」まちづくり会
大岩町東まちづくり会
大岩中まちづくり会
協力：豊橋市都市計画課

大盛況

◆ 第11回「灯籠で飾ろう二川宿」開催される！



新企画の「中・高生灯籠コンテスト」で
二川八幡神社の境内も美しく彩られる！



▲ 5年ぶりに開催された盆踊り（商家駒屋駐車場）

7月26日(土)、第11回灯籠で飾ろう二川宿(主催：NPO 法人二川宿「灯籠で飾ろう二川宿」開催実行委員会)が開催されました。

江戸時代の面影が残る旧東海道のまち並み約1.5kmの沿道に、約3千個の手作り灯籠が飾られ、訪れた人々は、幻想的で情緒あふれる街道の雰囲気を楽しんでいました。

平成24年から始まった灯籠まつりは、コロナ禍で3年間中止の時期があり、第9回は規模を縮小しての開催でしたが、実行体制の変化や新企画により、今回は過去最高の2万人の来場者となりました。

◆ インタビュー：実行委員会のお二人（NPO 法人二川宿 副理事長）に思いを聴きました！



▲ 実行委員会会長
児玉和久さん

子どもたちをはじめ、みんながまちに誇りと愛着を持てるようなまちづくりをしていきたいです。

多くの方に二川宿のことをより知ってもらえるよう、お祭りなどの活動を通じて、地域の歴史・文化の情報発信をしていけたらと思います。



▲ 実行委員会幹事
菰田宏隆さん

まちづくりの活動も少しずつ協力者が増え、一人ひとりが主体性を持って考え、取り組むようになり、共に成長させてもらっている気がします。

みんなでまちづくりに取り組み、まち並みや歴史・文化を持続可能な形で、将来に繋いでいけるようなコミュニティをつくっていききたいです。

● 今年の灯籠まつりの感想は？

★ 大変多くの方にお越しいただき、二川の外から来る方も多く、皆さんが待ち望んでいるお祭りなんだと改めて感じました。また、ご協力いただいた方一人ひとりが、役割と責任を持って取り組むことで、素晴らしいお祭りになりました。皆さんのご理解とご協力で、盛大なお祭りを開催することができ、大変感謝しています。

● 新企画の「中・高生灯籠コンテスト」への思いは？

★ 子どもたちが中心のお祭りになるよう、中高生を対象にした新しい取り組みを企画しました。灯籠の良さを活かした42基の力作の応募がありました。美術に携わる先生方を審査員にお招きし、審査結果は、二川八幡神社の展示で発表しました。来年もより良い企画となるよう、工夫していききたいと思います。

● 今後の灯籠まつりへの思いは？

★ 毎年、新しいことを取り入れながら継続・発展させていきたいと思います。参加者がやりたいことを実現でき、やりがいを持てるお祭りにしたいと考えています。また、気軽に参加できるようにして、協力者を増やしていけたらと考えています。

◆ 活気ある二川宿を目指し、まちづくり会も祭りに参加！

◆ 二川宿まちづくり会



山本会長

灯籠まつりでは夜店を出店し祭りを盛り上げました。

また、8月9日(土)には、商家駒屋で開催した「駒屋の夜店」にも出店しました。

これら2回の夜店は、子供たちに夜店文化を伝えることを、若い世代に受け継いでもらうよう、東町若連に運営主体となってもらい開催しました。

誰かがやってくれるのではなく、率先してイベント開催に参加される二川宿であってほしいです。



◆ 大岩町東まちづくり会



小杉会長

大岩町の氏神である大岩神明宮は、街道より奥まった所に構えており、二川宿を往来する人々を見守っています。いよいよ日差しも西に傾いたころ、神明宮前の街道から東の方角を眺めると、西の杵形に至る400メートル程の真っ直ぐな街道に、両端狭しと様々な灯籠が列を成し、明るく揺らいでいました。

この灯籠まつりで二川宿を訪れる人々は年ごとに増え、夏の風物詩となっています。

さて、11月2日(日)は「大名行列」。私達、大岩町東まちづくり会は、毎年「手作りアクセサリー」「木工品」「手作り陶器」などを格安で販売しており、今年も見物客に喜ばれるように、頑張るつもりです。



◆ 大岩中まちづくり会



横田会長

灯籠まつりでは、生ビール、レモンハイ、ラムネ 唐揚げ、団子の販売と Jazz ライブの演奏で参加させていただきました。

今年は更に魅力あるモノを目指し、例年よりも会議を重ねました。会員の皆様のご尽力で大岩中のゾーンは沢山のお客さんが集まっているとの声をいただきました。ありがとうございました。売り上げは会の運営資金に活用させていただきます。

今後も、もっと活気ある灯籠まつりになるように協力させていただきます。



トピック

前芝川灯ろうまつり開催！

～ 昔の湊の水辺が
幻想的な雰囲気にも包まれる ～

今年 3 月に景観重要建造物に指定された「前芝の燈明台」にも 118 年ぶりに明かりが灯りました！



約800個の灯ろうが豊川放水路の両岸に並びました。
前芝川灯ろうまつりは、二川宿の灯ろうまつりに触発されて始まったそうです。

8月14日(木)、15日(金)に、豊川河口の前芝町で、第11回前芝川灯ろうまつり(主催:前芝川灯ろうまつり実行委員会)が開催されました。

前芝町は、江戸時代に湊として栄え、日本各地へ物資を運ぶ廻船や、お伊勢参りの旅人たちの乗る参宮船が発着した場でもあります。いまでも、湊や漁村の面影を感じるまち並みが残っています。

江戸時代に東海道を通じて栄えたまちという点で、二川宿とは兄弟のようなまちですね。



▲ 実行委員会会長
加藤正敏さん
(みなと塾代表)

このお祭りは、地域の盆踊りを盛り上げるために始めたのがきっかけで、「第4回灯籠で飾ろう二川宿」と同じ年に、みなと塾の主催で初めて開催しました。

今年から前芝町自治会と連携し、実行委員会として開催できることになり、子どもたちにも手伝ってもらいながら、地域みんなで祭りを盛り上げています。

今後、二川宿の方とも交流し、お互いのお祭りやまちづくりを高め合っていけると良いと思います。